

# 2017年度 学校法人 三幸学園 札幌スポーツ&メディカル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 早坂 達

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 八田 則之

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・生徒、教員共に、規則を徹底すること。
  - ・退学率を更に低減するために、担任教員と教科担当教員の情報共有を密にしていくこと。
  - ・現場実習の満足度をより高くしていく為に、全学科共通のアンケート作成し、検証を行っていくこと。
  - ・就職率を100%に近付けるために、就職先企業との連携を強化すること。
- 以上の4点について、重点的に取り組んでいく。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

### (1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

理念や目指す人材像について、教職員間での周知はできているが、生徒や保護者への周知がまだ弱い。

#### ② 今後の改善方策

学園および学校の教育理念や目指す育成人材像が業界で求めている資質と同じであることを生徒へ教育指導を通し、深い理解へつなげ、より自発的な行動となるような働きかけが必要である。

保護者に対しては保護者会を実施、不参加の保護者へは資料の送付や個別機会を設け浸透を図る。

#### ③ 特記事項

保護者へは2018年度ですでに実施済み。

④学校関係者評価委員会コメント

**Q. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか  
業界としてはどう人物でいてほしいか？**

⇒(八田委員)コミュニケーション・社会性をもってほしい。

学生時代にアルバイトなどでいろいろな年代の人と関わるなどの経験をしてきてほしい。

**Q. 育成人物像があるが、当校生徒を見ていて身につけているか？**

⇒(小林委員) 誰に対しても挨拶ができることは素晴らしいと感じる。

(中山委員) 姉妹校との違いという点では札幌校が一番元気がよい(分離動作までできている)。

ただし、全員に徹底はできていないので、その部分は課題。

(橋本委員) 開校当初より生徒の気質自体はあまりかわらない。

年によって生徒のカラーは違うと感じる。

(2)学校運営

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

生徒および保護者専用のWEB掲示板を稼働させてきたが、登録生徒数が全校生徒数と一致しないため、未登録の学生への登録促しおよび、補助的な案内も必要と感じる。

② 今後の改善方策

登録期間および登録数の確認を早い段階で実施。

③ 特記事項

2018年度よりさらにデジタルサイネージを活用し、情報の露出を多くしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

外部評価についてはインターンシップや学外活動にて評価は行っているが、集団に対しての事前事後指導含め、体系的に取り組めていない部分もある。

また、資格についても、より理解を含め習熟度を高めるためのシラバスの一部再検討も必要である。

#### ② 今後の改善方策

外部評価を受けるにあつての事前事後指導を体系的に取り組むための仕組み作りを実施。

また、資格取得に向けての該当科目の授業関連系をより深めていく。

#### ③特記事項

シラバスについては2019年度へ向けて改訂準備を進めている。

企業連携先:コンサドーレ札幌、エスポラーダ北海道、サフィルバ、ルネサンススポーツクラブ、など他にも多数あり。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

#### Q. 資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

健康運動実践指導者資格の授業指導方法をよりよくするためには。

➡(橋本委員)実技と理論を持つ教員がもっと連携して実施する必要がある。お互いの内容を知らない状態で授業を展開している。

#### Q. 現場に必要な資格は？

(八田委員)現場では健康運動指導士の資格をもっている人が足りないため、取得してほしい。

自治体でも健康に対するの取り組みが増えているので、指導士のニーズはとても高い。

#### (4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

#### ① 課題

卒業生とのコミュニケーションが上手く取れていない部分がある。

#### ② 今後の改善方策

卒業後の生徒の動向が把握できるような仕組みを作っていく。

#### ③ 特記事項

WEB 上に卒業生同窓会サイトを立ち上げ、学校・卒業生が双方向でリアルタイムに情報交換が行える仕組みを作っている。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

高校や高等専修学校等との連携が、高校へ出向いての「体験授業」のみとなっており、不十分である。

### ② 今後の改善方策

高校や高等専修学校等との連携を「体験授業」のみではなく、より将来をイメージし易い内容を考え実行していく。

### ③ 特記事項

特にスポーツ分野においては、部活動指導員など各高校の部活動への支援・協力等を通して、出来ることがまだあると考えている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

#### Q. 辞めてしまう生徒の原因は？

➡(橋本委員)理想と現実のギャップ。

表面的なイメージが先行して就職してしまい、現実の業務量に耐えられなくなることがある。

人間関係(コミュニケーション)で苦戦する生徒も多い。

(小林委員)シミズビルライフでも理想と現実のギャップで辞めてしまう人がいる。

(八田委員)ルネサンスではあまり多くない。ただ、新入社員への手厚いフォローはしている。ミスマッチを起こして辞めていく。

#### Q. ミスマッチを起こさないために、学校ですべきことは？

(八田委員)就職ガイダンスのような形ではなく、OB・OGと生徒が1対1で話す機会があるとよいのではないかと。

(中山委員)広島Rの離職率は低い。卒業生をHRに呼んでいた。リアルな仕事の話をしてきた。(新人は掃除をすることが仕事でもある)

(早坂委員)エステ・美容業界も離職率は高い。生徒は「自分是可以」と思い込んでしまっている部分もあるかもしれない。

(澤田委員)新人時代の仕事をやらされていると感じてしまっているため、それなら独立しようと思ってしまう生徒が多い(企業に使われたくない?)。

(橋本委員)生徒の中でも独立志向の生徒が多い。ただ、新卒ですぐに独立できる世界ではないので、企業に属して働く意味をしっかりと伝える。社会的にも、1～2日で資格を取れる時代になってしまい、肩書を付けられるようになってしまった。そのため、自分でも独立してやっていけるのではないかと思う生徒が増えているのではないか。

## (6) 教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

海外研修について、興味を持つ生徒は多いが費用が高く、参加出来ない学生が多い。

### ② 今後の改善方策

入学前から概算の費用を伝え、計画的に費用を準備できる流れを作る。

### ③ 特記事項

2018年度より国内研修も選択できるようにし、多くの学生のニーズに対応できるようになっている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (7) 学生の受入れ募集

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

特になし

### ② 今後の改善方策

特になし

### ③ 特記事項

特になし

#### ④学校関係者評価委員会コメント

##### Q. 募集活動でできることはないか

➡(橋本様)大通で行われるイベントに出展して認知度拡大をしてみてもどうか。

授業で実施した内容を外部へ披露することによって、生徒にとっても良い経験になり、モチベーション向上にも繋がるのではないか。

#### (8)財務

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

##### ① 課題

特になし

##### ② 今後の改善方法

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

##### ③ 特記事項

特になし

##### ④ 委員コメント

特になし

#### (9)法令等の遵守

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

##### ① 課題

特になし

##### ② 今後の改善方策

特になし

##### ③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

地域に対する講座や社会貢献が不十分である。

② 今後の改善方策

授業を行っていない時間帯での施設開放（スタジオ、プール、マシンルーム）を検討し、実行する。

③ 特記事項

2018年度より近隣保育園の園児に向けて、学校開放や体操レッスンなどを実施予定。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

実際に留学生の入学者がここ数年少ない。

② 今後の改善方策

留学生が学習及び生活しやすい(安心)環境の検討

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし



#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

年度当初に掲げた、

- ・生徒、教員共に、規則を徹底すること。
- ・退学率を更に低減するために、担任教員と教科担当教員の情報共有を密にしていくこと。
- ・現場実習の満足度をより高くしていく為に、全学科共通のアンケート作成し、検証を行っていくこと。
- ・就職率を100%に近付けるために、就職先企業との連携を強化すること。

に関しては、各種数値や在校生・卒業生全員から取っている「アンケート」から見て、ある程度達成できた。

しかし、卒業生アンケートでは全体的な満足度、就職率や退学率に代表される各種数値に関しては、まだ改善の余地もあるというのが事実である。

今後は、教育機関として更に良い教育を提供していく為に、今年度の自己評価における改善点を一つ一つ改善していきたい。

次年度よりカリキュラム変更があるので、外部への提供なども踏まえて、現在カリキュラム編成をしている。外部への学習成果の提供によって、社会性やコミュニケーション力に繋げていけるようにする。

(八田委員)

専門学校は一般の人が入るには敷居が高い・閉鎖的(大学などのように一般者が出入りしていないため)外部には出ていけると思うので、外部(一般者)から来てもらう仕組み作りを考えていってはどうか。一般開放日など地域の方の敷居を下げる方法を考えることが必要。

以上